

稲山会 通信

第16号

2008年1月10日発行

発行人：新井昭夫 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

稲門山の会ホームページリニューアルのお知らせ

担当幹事 井村英明・金子治雄

稲門山の会会員は関東地方を中心に、北海道から九州まで広く分布しております。

現在は、伝達、報告手段として、年2回「稲山会通信」を発行しておりますが、稲門山の会会員の相互のスピードのある手段として、ホームページを通じての発表、報告は非常に有効なものと理解しております。

従来からホームページの活用をしておりましたが、更に内容を充実し、より魅力あるホームページとする為に、この度全面的にリニューアルすることに致しました。

このリニューアル版作成と維持を金子OB（S.41年卒）が引き受けてくれる事になりました。

稲門山の会ホームページのリニューアル版の概要

「役員会の依頼で、金子が今後ホームページ制作を担当させていただくことになりました。

会員皆様方の応援をいただき、充実したホームページづくりを目指したいと存じます。」

金子治雄

- 1) 稲門山の会新ホームページのアップ 2008年1月1日より。
- 2) 新ホームページアドレス <http://www.ko-en.co.jp/wms/>
- 3) 今回のホームページはスタート時、下記構成ですが、順次企画を増やして行きます。
 - ① 稲門山の会について
 - ② 50年のあゆみ
 - ③ 会イベントのご案内（会の行事案内）
 - ④ 会員インフォメーション（様々なお知らせ、山行案内）
 - ⑤ 山行レポート（07年秋・冬、08年春・夏・秋・冬）様子を見て月別に移行。
 - ⑥ 早稲田大学山の会へのリンク（現役入会希望者）
- 4) 山行レポートの募集

ホームページ活性化のポイントは、皆様方のライブな山行レポートですのでふるってご寄稿をお願いします。山行、ハイキングなど、山の会らしくオールラウンドなバラエティに富んだ紀行を期待しております。

紀行の形式は目で見えるホームページの利点を活かし、画像を主体として、そこにコメントを添える形態を採らせていただきます。07年秋・冬の山行レポートをご参照ください。

寄稿の際は下記、ご留意お願いいたします。

- ①形 式 画像主体 掲載写真の大きさは07年秋・冬を標準とします。
- ②内 容 行き先、メンバー、日時、簡単なコースタイム。
- ③写 真 10枚から15枚。
- ④コメント 総体の印象と各画像ごとのコメント。
- ⑤原稿ご送付方法

イ) メールの場合

画像は650ピクセル(メールサイズ)に縮小していただき、コメント本文と別メールで送付をお願いします。

(これは頂いたメールをプリントしてリライトするため、画像が本文と同時に添付してあると画像もプリントアウトしてしまうためです)

メールアドレス haru-kaneko@jcom.home.ne.jp

ロ) 郵送の場合

プリント写真はスキャニングしてデジタル画像にします。また画像CDでも結構です。写真やCDは後ほど、返却いたします。コメントは写真の説明を主に手短かにお願いいたします。

郵送先 住所 〒336-0911 さいたま市緑区三室646-6

氏名 金子 治雄

TEL 048-873-7091

携帯 090-9973-5753

5) 新ホームページの留意点

ホームページの基本事項を役員会で検討した結果、下記方式で進みます。

①氏名表示について

フルネーム表示にしますと個人名検索に引っかかります。(現在の会員用ページでも検索に引っかかってしまいます)したがって個人情報保護の観点から、氏名記載は姓のみにさせていただきます。

②会員専用ページの形態をとらない

ホームページを積極的に見ていただき、活性化するためにオープンとさせていただきます。

③書き込みページ無し

イタズラや海外メール防止のため、書き込みページは作りません。

④アクセスカウンタの設置無し

商業用でないので、カウンタは表示しません。

仙人池より劔を望む

期間：2007年10月2日～6日

メンバー：L松村啓之亮、三木常靖、保谷野厚、栗又功雄

かねてより仙人池からの劔を描きたかった。

宇奈月から入るにしろ、劔沢を下るにせよ、一人で入るには躊躇していた矢先、斉藤洋任からの企画が舞い込んだ。

室堂から入り劔沢を下って仙人池へはいる。帰りは仙人温泉から雲切新道を下り阿曾原温泉、樺平へ下りる、という。

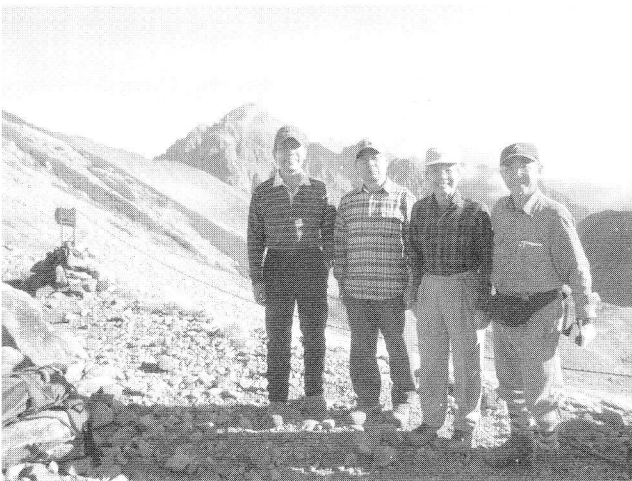
この企画に乗って待望の仙人池に入ることにした。

二日間かけて入った仙人池はまさに絶景、水面には八峰、チンネ、ジャンダルム、三の窓、小窓の王などなどがうつり、紅葉には少し早かったとはいえ、赤い実をつけたナナカマドが美しく気を吐いていた。

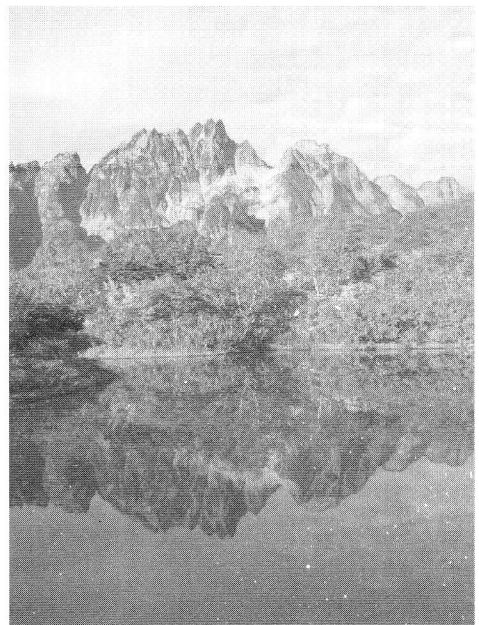
短歌5首

劔沢アイゼンつけて雪溪を下る先にはクレバスの穴
 仙人池水面にうつる八峰の鋭き岩肌紅葉にはゆる
 ヒュッテよりながむる山は八峰を守るがごときチンネの岩峰
 池面にもうつる岩壁ジャンダルムわずかな雪溪色あせて見ゆ
 仙人の小屋を仕切るは八十路すぎ岳人いやす名物おかみ

・山行記録はホームページを！（S.38.3卒 栗又功雄）



別山乗越にて



仙人池

涸沢『超旧人合宿』：残雪の穂高岳登山報告

悲しい話から始めるのは残念なのですが、本年1月に、現役の頃は一番タフで、後輩達の面倒見の良かった飯泉信さんが、まだこれからというお年で亡くされました。飯泉さんを偲んだ席で、いつもはまとまりに欠ける厚生部ですが、今回だけは同年代の仲間達で、追悼登山をやらうと衆議一決、誰からとも無く、5月連休に涸沢から奥穂高岳に登ろうという話になりました。

そして2月末、飯泉さんの1年先輩の松村さんが、斉藤（洋）さんに、具体的な計画を作るよう依頼し、阿吽の呼吸で、松村啓之亮（37年組：リーダー）、斉藤洋任（39年組：ツアーコンダクター）、井村英明（39年組：ザイル担当）、斉藤雄二（40年組：写真担当）、渡辺征二（41年組：登攀担当）による厚生部の布陣が出来ました。

厚生部だけでなく、同年代の人にも声をかけようということになり、37年組の栗又功雄（画伯）、吉田稔（ワイン担当）、白倉俊夫（地元奈川渡代表）それに39年組の田野部親遠（酒と肴担当）が参加されることになり、総勢9名の『超旧人合宿』グループが編成されました。もう40年以上も前になる現役の頃は、山でのアルコールはご法度でしたが、山小屋でビール、酒、ワインを売る時代であり、アルコールの持ち込みを、勝手にご容赦いただくことにしました。

4月30日、松村、栗又、吉田、斉藤（洋）、井村、田野辺、渡辺がスーパーあずさ1号で新宿を立ち、白倉さんが奈川渡から、斉藤（雄）は同期の仲間との燕岳からの転戦で、予定の午前11時、上高地に全員集合しました。上高地は快晴で、西穂高岳から奥穂高岳、奥穂高岳から前穂高岳の稜線がまぶしく光っています。明神、徳沢を越え、左に見える明神岳がいつの間にか前穂高岳に変わり、前穂東壁や四峰正面が見え出すと横尾に着きます。ほぼ予定通り午後3時半に着きました。時間があるので、小屋前の広場で、奥又白の岩壁を見ながら、鯛を肴にして、ワインを楽しみました。テント持参の吉田さん以外は、横尾山荘に泊まり、ゆっくりお風呂にも入りました。

5月1日、午前5時ごろに起きて、外を見ると、奥又白は雲に霞んでいます。食事をして、出発の時間になると、雨が降り始めました。午前7時に出発して、霧に覆われている屏風岩を左手に、1時間も歩くと本谷出会いに着きます。本谷は雪崩で埋まっています。小休止後、涸沢への急登にあえいでいると、雨が雪に変わりました。左手斜面の雪壁を気にしながらこれを通過して、一步一步雪を踏みしめ高度を稼ぐと、涸沢ヒュッテへの分岐に出ます。雪降る中で休みもとれず、本日宿泊の涸沢小屋へ向かい、午前11時に到着、本日の行動を終え、沈殿しました。

5月2日、朝起きてみると、雪は降り続いています。早速沈殿と決めました。39年組の3人は、仕事の都合で明日には帰宅せねばならず、今日1日を無駄にするのなら、帰っ



明神にて

た方が良いとの判断で、昼前に下山してゆきました。残る6名は湯を沸かして、吉田さん持参の携帯食を食べて、時間をつぶしました。夕方になり、雪が止み、まず常念岳方面から雲が散って陽が差して、しばらくすると前穂高岳に続く北尾根の全貌も見え出しました。ほぼ2日間の雪に蔽われ、岩稜の北尾根も真っ白です。気分としては全くの冬山です。その後、奥穂高岳も晴れ、空の青さを映して、青白い穂高連峰が現出しました。かなり下の方まで、新しく幾つかの雪崩の跡ができています。明日の好天を確信して就寝しました。



北穂山頂にて

5月3日、朝起きて、外へ飛び出してみると、予想通りの快晴です。奥穂高岳のモルゲンロートを心ゆくまで堪能し、食事をとって、出発の準備をします。当初の予定はザイテングラードから奥穂高岳登頂でしたが、例年より多い残雪に加え、更に2日間の積雪で、白出乗越の鎖場から頂上にかけては、ザイルがあっても確保点に欠けるようなので、危険を避けて、北穂高岳登頂に目標を変え、北穂沢を直登することにしました。午前7時出発。登攀担当の渡辺がトップで、37年組が続ぎ、しんがり写真担当の斉藤（雄）が務めます。移動性高気圧が頭上にあり、空はあくまでも青く、新雪はあくまでも白く、夢見心地の登攀が続きます。途中、スケッチの為、栗又画伯が涸沢に引き返しましたが、残り5名は締まった雪にアイゼンを利かせて、着実に高度をかせぎます。2時間強登って、松涛岩のある鞍部に出了。ここから、かなりクラストした雪稜を、一気にしかし慎重に登ると、北穂高岳山頂に出ました。午前10時でした。何故か突然ヘリコプターが飛んできて、危険とのことで急ぎ北穂小屋まで降り、小屋前で登頂の喜びを分かちあいました。北穂高岳からの眺めは最高で、北面には槍ヶ岳を真中にして、左に劔岳に続く稜線、右に白馬岳に続く稜線が青く輝いています。振り返って南面には前穂高岳北尾根、奥穂高岳が白く光っています。手の届くところに、真っ白な氷雪の滝谷があります。充分景色を楽しんだ後、下山開始し、最初の雪稜を慎重に越して、後は北穂沢を駆け下りました。途中、緩んだ雪に足をとられて転倒しましたが、皆、現役時代の訓練のおかげで、ちゃんとピッケルで制動出来ました。午後1時、涸沢小屋に戻り、昼食をとって、急ぎ明神まで下り、明神館に泊まりました。吉田さんは徳沢に TENT を張り、渡辺はそのまま帰宅しました。

5月4日、各自それぞれ予定があり、斉藤が徳本峠をピストンした以外は直接帰宅しました。

年度の異なるグループでしたが、山の会という共通の絆で結ばれ、和気藹々の楽しい山行ができました。北穂高岳からの下山時、松涛岩の基部で、学生時代に飯泉さんとドーム北壁を登った渡辺の提案で、それぞれの懐かしい滝谷の思い出をかみしめながら、「早稲田の栄光」を合唱し、よき友人、すばらしい先輩の追悼ができた山行でした。

(S.40 斉藤雄二)

9月の丹沢キャンプの報告

時代の反映か、現役会員数が少なくOB会としては心配ではありますが、それはそれとして継続して検討することとし、OB会は今年も活発に活動してゆこうとのことになりました。高尾山・奥多摩のハイキングを近年企画してきましたが、今回は、思い切って1泊してみんなで飯を作って一晩過ごそうとの計画となりました。

場所の選定は、集まりやすい東京近郊、飯が作れる、キャンプファイヤーが出来る、大声で騒げると言うことで「丹沢」を選定。山の会で過去に使った渋沢駅・大倉の「滝沢園」も事前に見ましたが、ここはやや商業的で当会には相応しくない。結果、その先の水無川・本谷の戸沢出合の「作治小屋」と決定。戸沢出合は新人歓迎会で良く行った懐かしい場所です。日程は9月29日（土）、30日（日）と決定。

当日は、14時に渋沢駅に幹事（斉藤（延）、新井夫妻、岡夫妻、豊田、青山）が集合し買い物。メニューはバーベキューと豚汁に決定。予算と買い物リスト作成に苦労しました。事前に何度か「作治小屋」に電話し、どんな物が借りられるかを照会したが「大丈夫ですよ」「何でも使って下さい」の気軽な回答で不安もありましたが、結果は大正解でした。

参加者の皆様には16時に集合頂く。残念ながら、小雨。強くなったり、緩んだりの生憎の天候。その分、小屋から見下ろす小雨に霞んだ戸沢出合が幻想的な景色。集まった段階で上田さんが「山の神様」に祝詞を上げる。その後、参加者一人ずつの自己紹介。姫野さんが奥様のご意向で遺影にて参加。

先ずは、バーベキューから始める。屋根のある野外の炊事場は1ヵ所のみ。隣で火を起せるが雨が滴る。そこへ、作治小屋の人が大きなビニールシートを手際良く張ってくれた。火は勢い良く付き、バーベキューがどんどん出来上がる。渋沢駅の小田急で買った高級牛肉が美味しい。豚汁は後藤君が一手に指揮って呉れて細かく、要領よく準備してくれ、これも順調に美味しい豚汁が出来上がった。暗くなり、適度にお酒も入った頃より、キャンプファイヤーの開始。小屋の人が予め準備してくれていた薪を3M位の高さに積み重ねる。火は小雨をもろともせず一気に燃え上がる。笠原さんが過去の幾つかの歌集から打ち込んで呉れた歌集原稿を斉藤（雄）さんが校正を加え、岡氏が製本してくれた全129曲の歌集を手許に、キャンプファイヤーを囲み懐かしい山の歌を歌う。大先輩の歌集を見ずに、歌詞を誦んじる姿に改めて驚かされました。



上田さんの山の神への祝詞



キャンプファイヤーを囲み、校歌斉唱

キャンプファイアーの後は、小屋に入って囲炉裏（これが、良かった。これが選定理由の一つでしたが正解でした）を囲んで又飲み・歌い・話し込みました。約束では電気は21時頃には消灯と言ってましたが、余りの賑やかさに、小屋の人も堪らずに仲間入り。ウイスキーの差し入れと鹿肉を「しかと食べろ」と言われ頂いた。結局24時頃まで電気をつけて貰って騒いだ。

翌朝は、これも美味しく炊けたご飯で朝食。笠原さんは小雨の中、皆さまに送られて、塔ノ岳へ登りに発った。囲炉裏を囲んで歌いしたので体中煤の臭い。でも、楽しいキャンプでした。

参加者は以下の27名です。写真は金子さんにご担当戴きました。

参加者27名（順不同）

三ツ木、梅崎、金子、杉村、加賀谷、寿円、松村（啓）、青山、松浦（旧姓山本）、久富、佐久間、上田訓央、上田敦子、箕打、三木、笠原、栗又、鈴木明人、斉藤（延）、新井、岡、福田、豊田、後藤、宮尾、新井夫人、岡夫人（荒川、高岡、清水（宏）、井村、斉藤（雄）は参加予定でしたが他の急用で欠席となってしまった。）

（新井昭夫・岡康彦）



炎を楽しみ、歌も堪能



朝靄と気持ちの良い冷氣の中、朝御飯

2008年「山とスキーの会」乗鞍高原スキーのご案内

日 時：3月7日（金）20時出発（借り切りバス）東京駅丸の内北口 三菱UFJ信託銀行前集合

3月8日（土）00時着 乗鞍高原温泉旅館 「みたけ荘」泊

3月9日（日）13時 みたけ荘出発 19時 東京駅着・解散

会 費：大人30,000円 小学生以下の子ども 24,000円

申 込：2008年2月1日までに連絡下さい。

連絡先：「山とスキーの会」市村栄一

〒105-0004 東京都港区新橋5-7-2

Tel.03-3436-3237 Fax.03-3436-3238

会費振込先：三井住友銀行日比谷支店 普通預金1750869 口座名義 山とスキーの会 市村栄一

その他：参加される方は、旅行傷害保険に加入する為に申込時に住所、氏名、生年月日、電話番号をお知らせ下さい。

役員会の活動報告

現在、稲門山の会役員会は上田代表のもと、次の役員12名で運営しております。

上田代表、吉田稔副代表、井村副代表、鈴木明幹事（現役担当）、関根幹事（会計担当）、笠原幹事（IT担当）、斉藤雄幹事（新年会担当）、金子治幹事（ホームページ担当）、渡辺征幹事（都岳連担当）、斉藤延幹事（企画イベント担当）、新井幹事（稲山会通信担当）、岡幹事（企画イベント担当）、名達幹事（事務局）

最近役員会が取り組んでいます案件と活動の報告は下記の通りです。

①秋の丹沢キャンプ

9月29日～30日に約30名のOBが参加して、キャンプファイヤーを囲み、むかし懐かしい「山の歌集」で、秋の夜空に「美声」を復活させ、楽しい宵を過ごしました。担当幹事は斉藤延、新井、岡幹事でした。今年も9月にキャンプを計画しておりますので、是非気軽にご参加下さい。

②稲山会通信の発行

年2回の発行で、OBの皆様にお届けしております。皆様の楽しい記事の投稿をお待ちしております。今回の担当は新井幹事です。

③恒例新年会の開催

毎年2月に新年会を開催致します。この「稲山会通信」に同封してお知らせが届いております。是非同期の皆様とお誘いあわせて、ご出席下さい。今年の担当は斉藤雄幹事がチーフで準備をしております。

④稲門山の会名簿の発行

5年毎の発行を企画しております。今年、2008年が改訂版発行の年です。名達幹事が担当します。

⑤稲門山の会ホームページの改訂

この「稲山会通信」でご案内の通り、稲門山の会のホームページをリニューアルしました。皆様からの山行報告、イベント等を積極的に取り入れることを企画しております。担当は金子治幹事です。

⑥現役「山の会」の現況

現在、現役学生数の減少化が進み、中村（M2）野村（B5）、伊藤穂高（M1）と3年生3名の総員6名ですが、活動は休止状態です。濱田会長が会員募集に努力されておりますが、苦戦しております。今年4月には「新人募集」を積極的行います。

編集後記

技術の進歩には驚かされます。バイオリンを弾いたり、受付をするロボットが出てきています。10年後には介護ロボットが実用化されるのでしょうか。この通信の発行も、50周年記念誌をお願いした会社（社長は早稲田OB）にお世話になっており、大変に便宜を図って頂いております。原稿をメールで送付すれば、後は、綺麗に作成して貰えます。

でも、山は昔と同じに自分の足で歩かないと味わいが出ません。これは変わらないでしょう。OBの皆様の山行記録を写真と共に掲載致しました。今後共奮ってご寄稿下さい。

新年会、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

新井・名達